



# はばたき



No.121

2012. October

## News&Topics

- オープンキャンパス2012開催
- グローバル地域センター始動

## 学生の日々

- シンフォニックウィンズ  
東海大会進出
- テニス大会「星・木苗杯」開催

## 研究室訪問

- 食品栄養科学部  
食品衛生学研究室  
臨床栄養管理学研究室

## 地域のシンクタンク機能を担う 「グローバル地域センター」 今秋本格始動

本学の附置センターとして本年度4月に開設した「グローバル地域センター」が、10月から本格的に調査・研究を開始することとなりました。

グローバル地域センターは、(財)静岡総合研究機構の調査研究機能を継承し、本年度はアジア・太平洋の政治・経済動向と、地震等災害時の危機管理体制の整備を柱として調査・研究を行います。政治・経済や危機管理等を研究領域とする専門家を研究員として、地域社会が抱える諸問題をグローバルな視点で捉え、調査・研究の活動を通じて課題解決を目指します。ご関心のある方は、是非研究に参加してください。

### アジア・太平洋（政治・経済・社会）部門

- 中国自動車産業を例とした中国の産業政策に関する調査研究
- アジア地域の消費者ニーズや消費行動に関する調査研究とアジアの現地で活動できるグローバル人材の育成

### 危機管理部門

- 静岡県の喫緊の課題である

「地震等の災害や原子力発電の問題等に係る危機管理体制の整備」に関する調査・研究

### 調査研究体制



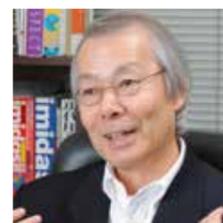
センター長 竹内 宏  
(特任教授)



副センター長 濱下 武志  
(特任教授)



副センター長 富沢 寿男  
(静岡県立大学国際関係学部教授)



特任教授 小川 和久

### 【アジア・太平洋部門】

特任教授	濱下 武志
特任教授	柯 隆
静岡県立大学経営情報学部	准教授 尹 大 榮
静岡県立大学国際関係学部	講 師 宮崎 晋生
静岡県立大学経営情報学部	講 師 高 瑞 紅
静岡県立大学国際関係学部	講 師 奈倉 京子

### 【危機管理部門】

特任教授	小川 和久
特任助教	西 恭 之

静岡県立大学グローバル地域センター

静岡県静岡市葵区鷹匠3丁目6-1 もくせい会館2階  
Tel. 054-245-5600 Fax. 054-245-5603

## 経営情報学部の就職率が商・経営系で 全国 1 位に

経営情報学部2012年3月卒業者の就職率(93.4%)が、全国大学の学部系統別就職率ランキング(毎日新聞社「サンデー毎日」2012年8月12日号「2012年学部系統別就職率ランキング」)において、全国の国公立大学の商・経営系学部で全国第1位にランキングされました。長引く経済不況に伴い、商・経営系学部の全国平均就職率が74.6%と厳しい就職状況が続く中、全国平均と比べても高い就職率を誇っているといえます。

※就職率=就職者÷【卒業(修了)者数-進学者数】×100  
内定率(【就職者÷就職希望者】×100)とは異なります。

## 災害時の「食の安全」について 福島で調査

食品栄養科学部では、8月23日から26日にかけて、学部2・3年生の学生有志20名と、教員4名が、東日本大震災および原発事故の影響で大きな問題を抱えている福島県に赴き、災害時における「食の安全」、「被災者への栄養管理」や「普段からの備蓄を含めた防災対応」について研修を行いました。



(福島県総合農業センターでの情報収集)

## >> 参加学生のコメント

食品栄養科学部 学生代表

稲垣 僚、杉山由華、戸田知里、西村 恵

現地では、福島県総合農業センター、福島市東部学校給食センターなどの食品関連施設や、福島学院大学、相馬市役所放射能対策室を訪問しました。

放射能検査実習中に、「野菜や果物からの放射線はほとんど検出されなくなっているが、数十年にわたり検査を継続しなければ風評被害は消えない」という関係者の方の言葉が大変印象に残りました。また、相馬市の視察では、震災後の復興が着実に進んでいることを確認できましたが、今後も支援を継続しなければならぬという気持ちになりました。



(福島学院大学での土壌調査)

現在、私たちは現地で得た情報をまとめ、全学部生に配布する資料作りに励んでいます。今回の研修の成果は、予想される東海地震・南海トラフ地震への対応を考える上で、極めて有用な情報となりましたので、今後は当学部より発信していきたいと思っています。

最後になりましたが、御協力いただいた各施設の皆様、御支援をいただいた後援会および教職員の皆様に厚くお礼申し上げます。



(福島市東部学校給食センターでの食品の放射線量測定検査)

参加者:

3年生13名(池田りこ、栗原沙織、杉山由華、西村 恵、増田 遥、吉田知夏、若杉南未子、伊東香織、稲垣 僚、戸田知里、萬年 遼、下田恭子、野田沙彩)、2年生7名(岩井克機、神田 悠、工藤里香、鈴木理沙、伊佐次里好、小林恵美、山本美緒)、教員(大橋典男教授、小林公子准教授、増田修一准教授、新井英一准教授)

## 本庶佑理事長が ロベルト・コッホ賞を受賞

本学理事長であり、医学博士の学位を持つ本庶佑理事長が、ドイツ最高の医学賞の一つである「ロベルト・コッホ賞」を受賞することが決まりました。ロベルト・コッホ賞は、国際的にも権威のある賞で、授賞式が11月にベルリンで行われます。

今回の受賞は、病原体の刺激に対して、リンパ球が遺伝子の組換えによって病原体の排除に適した抗体の種類（クラス）を作るメカニズム「クラススイッチ」に関する一連の研究業績を称えるものです。本庶理事長は、多様な抗体を生み出すために必要な遺伝子 AID (activation-induced cytidine deaminase) について今後も研究を進め、癌などの発症と病原体から身を守るための生体の免疫との関係について、さらなる解明をしていくとしています。



(本庶 佑理事長)

## >> 薬食科学総合学府・大学院特別講義で 本学理事長が講演

7月17日、本学 本庶 佑 理事長による薬食生命科学総合学府・大学院特別講義を開催し、学内から多くの学部生・大学院生、教職員が参加しました。「免疫の多様化機構；ゲノム不安定化；発癌；癌の免疫療法」というタイトルで、免疫学の第一人者である立場から、長年にわたる研究内容について話しました。生体の防御機構である免疫における重要な分子機構の解明から、免疫系の破綻による発癌機構の解明、さらには癌分子標的療法への応用と、多岐にわたる内容に、参加者は熱心に聞き入り、活発な議論が交



(講演する本庶理事長)

わされました。本庶理事長の科学に対する熱い思い、未知のことに挑戦し解明できたときの喜びや

感動が伝わり、学生・科学者にとって重要な"挑戦する気持ち"を呼び起こす講義となりました。



(講義に熱心に聞き入る参加者)

## トムソン・ロイター 論文 引用度指数 第1位

世界最大級の学術情報文献のデータベースを構築・提供する機関であるトムソン・ロイターの論文引用度指数(2006年-2010年)が、朝日新聞出版「大学ランキング2013年度版」において、本学は農学部門で1位、生態・環境学部門で3位でした。

論文引用度指数は、各大学及び研究機関の研究が、注目を集めているかどうかを知る目安となる指数で、本年度4月に開設した大学院薬食生命科学総合学府における、食品栄養科学や、薬学：薬科学、環境科学等、各専攻の研究が高い水準にあることを裏付ける結果となりました。

## 国際関係学部石川准 教授が 障害者政策委員会委員長に就任

国際関係学部の石川准 教授が、政府の「障害者政策委員会」の委員長に就任しました。障害者政策委員会は、平成23年8月に改正された障害者基本法に基づき、障害者基本計画の策定・変更に合わせて調査審議や意見具申を行うとともに、計画の実施状況の監視や勧告を行うための機関として、内閣府に設置されたものです。



(石川准 教授)

## オープンキャンパス2012開催

8月4日から10日の間、高校生・受験生を対象としたオープンキャンパス2012を開催し、高校生とその保護者の方々など4,000人以上もの参加者で賑わいました。学部・学生生活の紹介、キャンパスツアー、在学生との懇談会や模擬講義など、本学の魅力が伝わるよう、各学部が趣向を凝らしたプログラムを実施しました。

国際関係学部では、学生が企画の中心となって、社会貢献系サークルによるワークショップを開き、高校までの学習とは違う、「対話したり考えたりしながら答えを探す学び」を参加者に体験してもらいました。※そのほか、保護者向け説明会や、デンマークにいる本学の留学生とスカイプを使ったトークライブを行うなど、参加者の求めるリアルな情報を発信しました。



(学生団体によるワークショップ)



を行い、参加者が県大生となった自分の姿を思い描けるようブレゼンテーションを工夫しました。

オープンキャンパスの参加者アンケートでは、「教員、学生の対応が良かった」「絶対県大に合格しようと思った」など、たくさんの嬉しいお声が寄せられました。

また、8月20日にはオープンキャンパスに参加できない入学希望者を対象とした夏季大学説明会を昨年度に引き続き開催し、約200名が参加しました。

※この様子は下記URLでインターネット配信しています。  
<http://eshizuokatv.eshizuoka.jp/e926965.html>



(模擬授業で大学の勉強を体験)



(オリエンテーションでは学部や各専攻を紹介)

## 体験してみよう! 「くすりを生み出す科学の世界」 “夏休みファーマカレッジ2012”開催

静岡県内の高校生を対象とした「夏休みファーマカレッジ」が、「くすりを生み出す科学の世界」をテーマに8月9日、10日の2日間にわたって開催されました。

この催しは、高校生に、大学の最先端研究に用いられている設備や機器を使って薬学の最新の知識と技術に触れてもらい、薬学の世界を体験する機会を提供するもので、14回目を迎えた今年は、79名の高校生が参加しました。

高校生たちは、白衣に身を包み、教員や大学院生の指導の下、実際に機器や器具を操作しながら、「自分の遺伝子を鑑定しよう」「薬の効き方を調べてみよう」など、10の体験テーマに分かれて、様々な実験に取り組みました。これらの実験結果は、2日目の報告会でテーマごとに発表され、生徒同士による熱心な議論が行われました。

今回の参加者の中からひとりでも多くの高校生が、ファーマカレッジでの体験を機に、将来薬学の世界に進み、次世代の新薬開発や高度医療を担う人材に成長してくれることを期待しています。



(報告会で実験結果を発表する高校生)

## 県民の日事業を開催

1876年(明治9年)8月21日に、当時の「静岡県」と「浜松県」が合併して現在の静岡県が誕生しました。静岡県では毎年この日を「県民の日」として、郷土静岡の魅力さをさらに知ってもらう機会となるよう、7月から8月にかけて県内各地で様々なイベントを行っています。本学も、この県民の日事業に例年どおり「夏休み県大ツアー」「環境科学研究所一般公開」短期大学部では「大学見学会」を開催しました。各イベントとも多くの方々にご参加いただき、日頃入る機会のない大学の様子に興味を持っていただき、「来年度も参加したい」などの嬉しい声が寄せられました。

### >> 環境科学研究所一般公開

環境科学研究所では、研究内容の展示やデモ実験を通して、一般の方々に研究所の活動を広く知っていただき、楽しみながら環境・生物・工学など多彩なジャンルの科学に理解を深めてもらうことを目的に、8月18日に研究所一般公開を開催しました。

この一般公開は、「県民の日」並びに静岡科学館「る・く・る」の行事の一環として周知してきたこともあり、当日は220名を超える方が来所されました。静岡市内を中心に、西は浜松市から東は沼津市と、県内全域に加え、静岡県外からも参加者があり、夏休みを利用して、小学生と保護者の方、中学生、高校生などのほか、科学に関心のある会社員や教員など一般の方も参加されました。

見学先では、植物の香りや味から植物名を当てるクイズや、水質を計測する調査体験、身の周りの微生物の観察など、各研究室ごとに趣向を凝らした実験と展示が好評で、参加者からは来年もまた参加したいとの声が多く寄せられました。

いつもの研究所の静かな雰囲気とは異なり、明るく賑やかで、活気に溢れたイベントとなりました。



(各見学ポイントではスタンプラリーも行いました)

### >> 夏休み県大ツアー

8月21日には、夏休み県大ツアーを開催しました。当日は、小学生の親子連れや中・高校生、近隣にお住まいの一般



(舞台芸術公園 屋内ホール「楯門堂」の見学)

の方など、90名程の方が参加され、普段入ることができない研究室や実習室等の見学、体験学習を通して、大学の醍醐味を味わいました。また、参加者の一部は、静岡県舞台芸術センター(SPAC)との連携により、日本平の舞台芸術公園の野外劇場や稽古場など、本格的な舞台施設を見学しました。これは、本学と周辺の教育文化機関が連携し、文化や情報の発信、学びの場を提供するプロジェクト「ムセイオン静岡」を紹介するもので、今年度初めての取り組みでした。



(看護学部 新生児の身体計測体験)

### 「安全実験マニュアル」の配布及び講習会の開催

4月25日、学内の安全な教育・研究環境の整備に取り組む安全衛生委員会は、安全に関する基本的事項をまとめた「安全実験マニュアル」を研究室に配属となった学生へ配布するとともに、理系研究室の安全対策に関する講習会を開催しました。

講習会には学生・教職員250名が参加し、安全衛生委員会委員である薬学部の赤井周司教授から、高圧ガス・液化ガス・化学薬品を取り扱う上での注意事項について、他大学での事故や赤井研究室での安全対策等の具体的事例を交えた解説があり、参加者は安全で適正な実験方法について意識を高めました。



(薬学部赤井教授による講演の様子)

## 食品栄養科学部 2012 キッズ・ラボ ～食塩水を使った虹作りに挑戦～

食品栄養科学部では、「科学」の不思議さ、面白さをたくさんの子供たちに広めたいという思いから、しずおか科学月間のイベントの一環として、「静岡県立大学食品栄養科学部 2012 キッズ・ラボ」を7月28日に開催しました。本年度は、開催場所を本学からディスカバリーパーク焼津天文科学館に移し、主に焼津市と藤枝市在住の子供たち



(虹作りに熱中する子供たち)

を対象に行い、小学校3～6年生を中心に40名とその保護者の方が参加しました。

当日は、じゃがいもを使った飽和食塩水と水の見分け方、密度の違う食塩水を使った虹の作り方の実験を行い、子供たちは、完成した「虹」を手で得意な笑顔を見せていました。食塩水を使った虹作りを通して、「科学」を身近に感じてもらい、子供たちの科学への興味・関心を引き出す良い機会となったと思われます。

### ○実験を担当した教員

島村裕子助教、増田修一准教授、新井英一准教授、佐久間理英助教、吉川悠子助教、井上広子助教



(できあがった食塩水の虹)

### 夏休み親子環境教室

環境科学研究所・地域啓発センターでは、8月18日に、親子環境教室を開催しました。これは、科学実験の面白さを通じて、環境問題に興味を持っていただくという企画で、2004年から毎年開催しています。本年度は、「地球温暖化について学ぼう」というテーマで、

地球温暖化の現状についてのお話しをした後に、温暖化の原因物質とされている二酸化炭素の発生と、植物による二酸化炭素の吸収に関する実験を行いました。実験は、環境科学専攻の大学院生が主体となって行われ、事後のアンケートからも「もっとたくさん実験したい」「楽しかった」という声が寄せられました。参加された保護者の方からも「勉強になった」との声をいただきました。



(植物の二酸化炭素の吸収に関する実験) (参加者とサポートにあたる大学院生と教員)

## 国際関係学部 GP プログラム 『フィールドワーク型初年次教育モデルの構築』 平成 23 年度成果報告会

フィールドワーク型初年次ゼミの平成23年度成果報告会を6月5日に開催しました。

本プログラムは、フィールドワークを軸に



(オーストラリアゼミの発表の様子)

したプロジェクトを通じて、能動的に学習に取り組む学部1年生を育成するものです。参加学生は米国、オーストラリア、ケニア、トルコ、ベトナム、日本の6か所から興味のあるゼミを選び、その後、企画立案、事前準備、フィールドワーク、帰国後の報告まで、学生が主体となって進めていきます。文部科学省の補助金を受け、平成22年度、23年度の2か年にわたり、ゼミを開講してきました。

報告会では、木苗学長の挨拶、およびプロジェクトリーダー立田洋司特任教授からの趣旨説明の後、各ゼミの学生が、プロジェクトやフィールドワークの成果などについての報告を行いました。限られた時間の中でしたが、学生は各ゼミの特色を活かした充実した発表をし、参加者からの質問に対しても丁寧に応答していました。報告会の最後に、高柴学部長から「自分の思いに残ったものを発展させていくことが大事」など、一つひとつの報告に講評がありました。

GPプログラムの取り組みの詳細については以下のサイトからご覧いただけます。

<http://gp.mouseion.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

## 食品栄養科学部学生 静岡茶の製造を体験

7月20日、食品栄養科学部食品生命科学科の学生28名と教員5名が、菊川市の静岡県農林技術研究所茶業研究センターにて茶製造実習を行いました。お茶に関する基礎知識を講義で学んだ後、施設を見学し、圃場にて茶葉の手摘みを体験したほか、静岡県産の生茶葉を使い、紅茶と緑茶作りも体験しました。最後に、おいしいお茶の入れ方を教わり、実際に出来上がった茶葉から入れたお茶を味わった学生らは、安全でおいしいお茶の製造についての理解を深めました。



(研究所職員の方の案内で施設を見学)

7月20日、食品栄養科学部食品生命科学科の学生28名と教員5名が、菊川市の静岡県農林技術研究所茶業研究センターにて茶製造実習を行いました。お茶に関する基礎知識を講義で学んだ後、施設を見学し、圃場にて茶葉の手摘みを体験したほか、静岡県産の生茶葉を使い、紅茶と緑茶作りも体験しました。最後に、おいしいお茶の入れ方を教わり、実際に出来上がった茶葉から入れたお茶を味わった学生らは、安全でおいしいお茶の製造についての理解を深めました。



(摘んだ茶葉の加工を体験)

## 論理的思考力を身につける

### ディベート大会を開催

6月25日、食品栄養科学部において、学部1年生の授業「食品栄養科学入門」の中でディベート大会が開かれました。本授業の目的は、食品栄養科学部に入学した1年生が、大学生活やその後の社会において、自ら学び、課題を見つけ、それを解決するために必要な技術と能力の修得を目指すものです。実際のディベートでは、「機能性食品」「健康情報番組」「遺伝子組み換え食品」「食品添加物」の4テーマについて可

否を討論するグループに分かれ、コミュニケーション能力と論理的思考を鍛錬し、社会問題への理解を深めながら、論拠に基づいた討論を行いました。



(論理的に意見を述べ合いながら授業に真剣に取り組む学生ら)

## 食品栄養科学部 創設25周年の記

7月27日、今年3月に退職された酒井担先生、鈴木裕一先生、横越英彦先生より寄贈された記念プレートが、食品栄養科学部棟1階に設置されました。このプレートは、1987年4月に創設された食品栄養科学部の創設25周年を記念し、初代学部長である星猛先生が掲げた食品栄養科学部創設時の理念と目標と、創設当時の教授・助教授の名前を記したものです。「科学的研究を重視し、広い学問分野で支えられた食品および栄養の両学科が緊密な連携をとり、総合的に食と健康の問題を追究せよ」との旨が記されています。食品栄養科学部は、生命科学を基礎とした総合的な知識と技術を身につけ、食と健康に関する様々な問題の解決に取り組むことができる科学者、専門技術者、管理栄養士を養成してきました。この碑文に記された星先生の言葉を胸に、食品栄養科学部教員が一丸となり、教育・研究に日々邁進していくという決意を新たにしました。



初代学部長星猛先生(中央)を囲んで(木苗学長と食品栄養科学部教員)

## 受賞一覧

\*各受賞の詳細については本学公式サイトのニュース&トピックスからご覧いただけます。

### 教員

#### ◆日本薬学会奨励賞 薬学部 尾上 誠良 准教授

薬学部薬物動態学分野の尾上 誠良 准教授は、2012年度日本薬学会奨励賞を受賞しました。この賞は、日本における薬理学、製剤学、製剤技術、医療薬理学の基礎と応用に関し、独創的な研究業績を上げるとともに、これらの分野の将来を担うことが期待される研究者を奨励しています。本研究成果は、薬物の吸収性改善や副作用回避を目的としたテクノロジーの開発に関するもので、今後の薬剤開発に寄与するものと期待されます。

●研究テーマ：「物性ならびに薬物動態制御を基盤とした薬物送達研究」

#### ◆第5回臨床薬理研究振興財団研究大賞 薬学部 林 秀樹 講師

薬学部臨床薬効解析学分野の林 秀樹 講師が、第5回臨床薬理研究振興財団研究大賞を受賞しました。この賞は、財団からの研究奨励金による研究及び研究報告の中から、革新的であり、今後更なる発展が期待できる研究を表彰するものです。研究内容は、関節リウマチ治療薬メトレキサートの薬効と患者遺伝子情報を解析したもので、関節リウマチの薬物療法を最適化し、患者QOLの向上とともに、医療費の削減も期待できるものです。

●研究テーマ：「関節リウマチにおけるメトレキサートの薬効を予測するための遺伝子多型」

#### ◆平成24年度日本薬学会東海支部学術奨励賞 薬学部 林 秀樹 講師

薬学部臨床薬効解析学分野の林 秀樹 講師が、平成24年度日本薬学会東海支部学術奨励賞を受賞しました。

●研究テーマ：「遺伝子多型と薬物動態解析に基づく個別化薬物療法を目指した臨床薬理研究と長期実務実習にリンクした卒業研究指導への応用」

#### ◆日本DDS学会賞 薬学部 奥 直人 教授

薬学部医薬生命化学教室の奥 直人教授が、第28回日本DDS学会学術集会において、日本DDS学会賞(永井賞)を受賞しました。この賞は、日本のDDS(ドラッグデリバリーシステム)研究の最前線において活躍し、同研究分野の発展に広く貢献した研究者に贈られる、DDS研究分野における最高位の賞です。学会では「リボソームDDS研究の魅力」というタイトルで受賞講演を行い、今日では一般的にも広く知られるようになったリボソームの歴史から、DDSへの応用、最近の研究成果まで、リボソームの多様性とその研究の魅力を伝えました。



### 学生

#### ◆日本薬学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞 薬学部 池上 奈穂 さん

薬学部薬学科6年の池上奈穂さんが、日本薬学会第27年会において、日本薬学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。この賞は、(財)永井記念薬学国際交流財団の援助のもと、学部学生の研究発表を奨励するために設けられたもので、優れた研究発表を行った学部学生を表彰するものです。本研究では、フレーバーがその味に及ぼす効果を網羅的に検討することで、フレーバーの特徴及びOD錠の味マスキング効果の解明を目的としており、適切なフレーバーの選択がピオグリタゾンOD錠の総合的な服用感の改善に大きく寄与することが明らかとなりました。本研究手法は、OD錠の官能的マスキングを目的としたフレーバーの選択に有効な手法になり得ると期待されます。

●受賞演題：「ピオグリタゾン口腔内崩壊錠の味マスキングを目的としたフレーバーの網羅的検討」



#### ◆分析化学討論会 若手ポスター賞 生活健康科学研究科 御手洗 晴日 さん

生活健康科学研究科2年の御手洗 晴日さんが、第72回分析化学討論会(日本分析化学会主催)において、優秀なポスター発表を行った若手研究者に送られる櫻島賞を受賞しました。発表内容は、平成21年より開始された地域結集型研究開発プログラム「静岡発 世界を結ぶ新世代飲料と素材の開発(独)科学技術振興機構」の研究結果で、構築した方法については、特許出願を行っています。

●発表演題：「ポリフェノール類の渋味評価法と渋味抑制素材の探索法の構築」



#### ◆2011年度DBSJ(日本データベース学会)論文賞 経営情報イノベーション研究科 伏見 卓恭 さんほか

経営情報イノベーション研究科博士後期課程2年の伏見 卓恭さんら3名の論文が、2011年度DBSJ(日本データベース学会)論文賞を受賞し、6月23日に開催された、第11回DBSJ通常総会+2011年度DBSJ論文賞授賞式で表彰されました。この賞は、日本データベース学会で2011年度に発表された論文の中から1件のみ選ばれる、非常に栄誉ある賞です。

●論文名：「ネットワーク機能コミュニティ抽出法」著者：伏見卓恭、齊藤和巳(静岡県立大学)、風間一洋(NTT)

#### ◆第12回日本抗加齢医学会総会 優秀演題賞 薬学部 平野 早絵 さん

薬学部薬学科6年の平野早絵さんが、第12回日本抗加齢医学会総会において優秀演題賞を受賞しました。この賞は、一般口頭発表において、抗加齢研究に寄与する優秀な演題に贈られるものです。

●発表演題：「心臓の加齢変化に対するスタチンの効果」



#### ◆バイオメディカル分析科学シンポジウム 臨床研究奨励賞 薬学研究科 筒井 陽仁 さん

薬学研究科博士後期課程2年の筒井陽仁さんが、第25回バイオメディカル分析科学シンポジウムにおいて、臨床研究奨励賞(星野賞)を受賞しました。この賞は、今回より新設された賞で、臨床研究に寄与する特に優れた発表に対して授与されるもので、記念すべき第一回の受賞者に選ばれました。

●発表演題：「光学活性カルボン酸のキラル誘導体化 LC-MS/MS 分析 -唾液中 DL-乳酸、DL-β-ヒドロキシ酪酸の定量-」



# 学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。



## 第22回 星・木苗杯開催!

実行委員 大石奈穂美 齋藤雄太 島崎あづみ 杉本溪 林美香  
(薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻博士前期1年)

去る7月8日、食品栄養科学部恒例のテニス大会「星・木苗杯」が開催されました。当日は天候が崩れかけたものの、中断することなく最後まで試合を行うことができました。参加者38人中、男子では食品分析学研究室の熊澤茂則教授、女子では人類遺伝学研究室の地本純子さんが優勝し、トロフィーと記念品が授与されました。試合中は皆笑顔

に溢れ、とても楽しそうにプレイしていたので、実行委員一同とても嬉しく思っています。教員や学生が一同に会し、交流する場を設ける学部はあまり無いと思うので、今後もこのような機会を大切に、人と人とのつながりを深めていきたいと思えます。



## シンフォニックウィンズ 静岡大会金賞受賞、東海大会に進出

シンフォニックウィンズが第53回静岡県吹奏楽コンクールの「大学の部」において、朝日新聞社賞と県教育長賞を受賞し、東海大会へ進出し、健闘しました。

シンフォニックウィンズ部長 假屋 唯香(薬学部3年)

10年前から年に一度の吹奏楽コンクールに出場し始めて、初めて金賞を受賞し、東海大会へ駒を進めることができました。部員一人一人の「吹奏楽が好き」という強い気持ちと、多くの人の支えがあってこそ成し得たことだと思いま

す。東海大会では惜しくも練習の成果を十分に発揮できず、悔いの残る演奏となってしまいました。この経験を生かして、何年もかけてこのバンドが一步步ずつ進歩してきたように、これからも進歩し続けるバンドでありたいと思えます。



## 準硬式野球部 静岡地区リーグ優勝!

準硬式野球部 主将 川村 圭(国際関係学部3年)

私たち準硬式野球部は、「平成24年度東海地区大学準硬式野球 静岡リーグ春季リーグ戦」において、優勝という成績をおさめることができました。皆様からたくさん応援を頂き、選手一同を代表して改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

なかでも、野球以外においても様々なアドバイスを頂いた顧問の伊藤創平先生、私たちに親身になって接して頂いた同じく顧問の三好規之先生、研究でお忙しい中練習

に来てノックを打ってくれた先輩方、細かな仕事を文句一つ言わずにこなしてくれたマネージャーの皆さん、本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願ひします。

今、チームは9月からの秋季リーグ戦に向けて練習に取り組んでいます。また良い報告ができるようチーム一丸となって精一杯頑張っていきますので、応援よろしくお願ひいたします!



## 若者エンパワメント委員会 子ども・若者支援のための研修会を開催

若林 勇太(国際関係学部4年)

静岡県立大学公認サークルYEC(若者エンパワメント委員会)では、今年度、内閣府より「子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」の委託を受け、子ども・若者支援に関わる様々な関係者の資質向上と、ネットワーク形成を目的とした研修会を、7月から12月にかけて全5回開催することとなりました。

第1回目を7月27日に静岡労政会館で開催しました。「子ども・若者を取り巻く行政・政策の現状と課題」のテーマのもと、会の前半では講師としてお呼びした、法政大学社会学部教授の平塚眞樹氏、横浜市政策局政策課の関口昌幸氏による基調講演を設け、平塚氏からは、フィンランドを中心に、ヨーロッパの若者政策の概論や争点についての講

演があり、それを受けて関口氏からは、日本の中でも若者政策の先進的地域と言われている、神奈川県横浜市における若者支援政策についての講演がありました。

後半では、講師のお二方に加え、YECメンバーも交えて、「日本のこれからの若者政策を考える」をテーマにパネルディスカッションを行いました。当日の参加者は計30名に上り、行政・NPO関係者を中心に、若者支援関係者の参加が多数あり、若者政策の概論を理解し、静岡における若者政策を考えるきっかけとなるだけでなく、参加者が繋がり、若者支援に携わる方々が、顔の見える関係性を構築するためのネットワーク形成にも繋がる場となりました。

●YEC公式サイト <http://youth-empowerment.jimdo.com/>



## 焼津で地域活性化プランコンテスト

大学生が中心となり焼津市の活性化を考える「地域活性化プランコンテスト」が、9月1日に焼津商工会議所で開かれ、本学の経営情報学部の学生が実行委員会のメンバーとして企画・運営に携わりました。

本多 隆爾(経営情報学部4年)

今回の企画は、「学生の価値観を広げるキッカケを地域との関わりの中で持ってほしい」という思いで進めてきましたが、コンテストを終えて、一番学べた・成長したのは、実行委員会のメンバーかなと思います。社会人の方々(主に市役所の方)と一緒に企画していく中で、学生の強みも感じましたし、人との繋がりの大切さも凄く感じました。学生はやはり、どの団体も言えないような利益を度外視した提言が出来るのが特別だと感じました。一方で、人とのつながりを最も尊重する社会人の行動を見て、こういった細かな配慮を積み重ねることが、思いを実現するためには必要なのだと思いました。企画自体はなんとかやり遂げる事が出来た状態です。社会人の皆さまにも沢山協力してもらいましたし、色々な企業や人と交流して焼津市が更に好きになりました。来年も企画を継続し、静岡の恒例行事にしていきたいと思っています。

石田 裕紀子(経営情報学部4年)

実行委員をやって何より嬉しかったことは、参加学生から「焼津ってこんなに魅力がいっぱいあるんだね」という言葉もらったことです。他の地域との比較や、異分野の学問からの視点があり、みなさんの発想がとても興味深いものでした。いろいろな可能性の種があることに気づくことができました。また、プラン発表の前日のリハーサルで、社会人からのアドバイスを受け、寝る間を惜しんで自分たちのプランにさらに磨きをかけていく、このプロセスが深く心に残っています。本番で磨き上げられたプランを堂々と発表する学生の姿が輝かしかったです!実行委員として、参加学生がよりプラン形成しやすい環境を整えたいと思いました。



## 静岡学習支援ネットワーク 中学3年生を対象にした学習支援を新たに開始

中学生の学習支援を行う大学公認サークル「静岡学習支援ネットワーク」が、10月からあらたな学習支援サポートの場「みらこや」を開催することになりました。

静岡学習支援ネットワーク代表 白谷 素子(経営情報学部2年)

私たち静岡学習支援ネットワークは、過程の経済的理由や不登校など、勉強をしたくてもできない子どもたちの力になりたい、という思いを持った大学生が集まり、今年2月に誕生した団体です。勉強すること、学ぶことは楽しい!そう感じてもらえるような場所づくりを目指しています。

今年5月から、静岡市内在住の中学1・2年生を対象にマンツーマンで学習サポートをする「宿題カフェ」を始めました。私たちの活動を新聞記事などで見て参加してくれた中学生たちを相手に、主に英語や数学を教えていて、私たち大学生もお互い教え合い協力し合いながらサポートしています。

秋からは始める「みらこや」は、中学3年生を対象にした学習支援を行います。「未来の可能性をちょっと広げる寺

子屋」という意味で、高校進学や社会に出るために必要最低限の学力を身に付けられるよう、サポートしていきたいと思っています。私たちの強みは無償支援であること。経済的理由で勉強できない子どもたちにとって、開けた学びの場でありたいと思います。そして何より、私たち自身が子供たちと勉強できることが楽しいし、子供たちがかわいい。楽しいと思えることが、学生団体として支援を続けていくうえで何より大事だと思っています。

静岡学習支援ネットワーク、宿題カフェ・みらこやの詳細や参加方法については公式サイトからご覧いただけます。

<http://shizuoka-study-support.jimdo.com/>

## 活躍する卒業生

大学で学んだ組織経営学が今の仕事に活かしています。



名前 岩崎 翔太さん  
卒業学部 経営情報学部 (2009年3月卒業)  
勤務先 静岡ガス株式会社

### Q1. どんなお仕事をされていますか?

ハウスメーカーや工務店等(サブユーザー)に、都市ガスの提案営業を行っています。一生に一度の家造りを考える顧客(エンドユーザー)

に対し、ガスのある快適な暮らしを届けるために、提案を採用していただいたときは本当にこの仕事にやりがいを感じます。

### Q2. 大学生活はどんなことに力を入れていましたか?

大学では組織経営学について研究していました。組織経営学とは、企業等の組織を効率的・効果的に運営するための理論・研究のことです。「相手を説得させるためのコミュニケーション」というテーマの論文の執筆を通して学んだことは、現在の提案営業のプレゼンに、ダイレクトに活かされています。

### Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

幅広い人脈を作れたことです。学部学科を超えた友人ができ、社会人になった今でもよく情報交換をしています。中には、取引先の会社に知人がいることもあり、スムーズに商談ができたということもありました。

### Q4. 今後の目標について教えてください。

もちろん営業ですから、ノルマ達成を目標に日々仕事していますが、「仕事は量より質」を大前提に、常に相手(サブユーザー、エンドユー

ザー)の立場になって物事を考えられる営業マンを目指しています。

### Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

「遊ぶときは遊ぶ」、「学ぶときは学ぶ」。メリハリをつけることが大切だと思います。みなさんは今、将来の自分へ投資しているのですから、今を大切に大学生活を有意義に過ごしてください。



顧客向けイベントで新商品のPRをする岩崎さん

## 留学体験記

International Student Report

名前 古山 亜利紗  
所属 国際関係学部 国際言語文化学科 2年  
留学先 ニューキャッスル大学  
留学期間 2012年8月(1ヵ月間)

私は今まで留学をしたことがなかったのですが、まずはこのイギリスでの語学研修に参加してみようと思い、今回参加を決めました。また、イギリスは憧れの地であるため、実際に滞在することで、今までと違ったイギリスを感じられ、多くのことを体験できると思いました。

留学中の授業は様々で、午前は語学力のレベル別に別れたクラスで勉強し、教科書や先生が用意してくれた教材を使いながら、ディスカッションやロールプレイをしたり、リスニングや文法を習いました。午後にはMini-lecture & discussionという時間があり、中国の方々などと交流を深めました。また、Optionという授業は、自分の学びたい内容を選択できる仕組みで、私の選んだBritish Sportsでは、街の人にスポーツについて質問をして回るという授業を行いました。Reading And Listeningの授業では、映画『Notting Hill』の本を読んでテーマについて話し合い、映画を鑑賞しました。こうした授業と交流がとても勉強になりました。

寮の近くのスーパーは閉店時間が早く、特に早い土日は食料を確保するのが大変でした。週末はみんなで旅行に行きました。映画ハリポッターの撮影に使われたお城や、ニューキャッスルのサッカースタジアムに行き、スタジアムでは選手の控室など普段は絶対に入れないところも見学させていただきました。いろいろな場所に連れて行っていただき、貴重な体験ができました。

今後は、この研修で感じたイギリスに対する視点を忘れずに、日本でも広い視野で物事を見ていけたらいいと思います。今回は短期間の留学でしたが、機会があれば次はもう少し長い期間、留学したいと思います。そしてより多くの人と会話できるように、語学力、特に会話能力の上達とともに、英語の勉強はもちろんのこと、もっと積極性を身につけていきたいです。



授業で行った広告のプレゼン



旅行で訪れた Angel of the North にて

学生の頃から目標だった「まちづくり」に携わっています。



名前 森田 陸さん  
修了課程 大学院経営情報学研究所 (2010年3月修了)  
勤務先 静岡鉄道株式会社

### Q1. どんなお仕事をされていますか?

企画部に所属しています。静鉄グループの新規事業の企画立案や、空港関連ビジネスの活性化を行っており、今は、富士山静岡空港を利用する海外からの観光客の対応をしています。企画の内容は、不動産事業を

はじめ多岐にわたります。自分が企画立案した事業が形になったときが一番やりがいを感じます。

### Q2. 大学生活はどんなことに力を入れていましたか?

大学時代は、7つのクラブやサークルに所属しており、学生生活の半分をクラブ・サークル活動に費やしていました。とにかく、いろいろなところに合宿や旅行で行ったり、しょっちゅう友人たちと飲み会を開いたり。そのおかげかどうかわかりませんが、行動力や飲み会での対応力は現在の仕事でも役立っています(笑)。また、クラブ・サークル活動を通じて知り合った友人関係は、地元で仕事をする私にとって大きな財産です。

### Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

学生数が少ないこともあり、学生・教授・職員の距離が近いので、アットホームな雰囲気です。学生生活を送ることができました。また、他大学に比べて地域とのつながりが深かった点も、地元で働くに当たり大いにプラスとなりました。学部を卒業して社会人になってからは、業務をこなしていく中で、自分の知識不足を感じることも多くありましたが、社会人を経験

してから大学院であらためて学びなおすことができ良かったと思います。

### Q4. 今後の目標について教えてください。

学生時代から抱いていた目標でもある、「まちづくり」を推進していきたいです。自分たちの住む町を自分たちの手でより良いものにしていくのに学生の力は欠かせません。今後も地域の活性化のために、地元企業で働く人間として、卒業生として、県立大学と積極的に産学連携を図っていききたいと思います。

### Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

社会人になってからは、第三者から得た情報ではなく、自分が見聞きし体験した情報こそが求められます。そのためにも、自由に使える時間が豊富にある学生時代に、いろいろなところに足を運び、多くの経験をし、多くの人脈を築いておくことをお勧めします。

## 食品栄養科学部 食品衛生学

### 研究室

**増田 修一 准教授** (食品衛生学、環境衛生学)  
**島村 裕子 助教** (食品衛生学、食品微生物学)  
 ■ 在籍学生数: 9名  
 ■ <http://sfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/foodhygn/index.html>

現在、食中毒、放射能汚染など、食品の安全性が大きな社会問題となっています。また、糖尿病や肥満などに対して効果を示す食品の機能性に関する研究も盛んに行われています。食品衛生学研究室では、「食を通して、生を衛る」を合言葉に、日常的に摂取する食品の安全性や機能性について幅広い研究を行っています。

#### ■機能性と安全性の同時評価

「当研究室では、食品中に存在する化学物質の毒性評価、食中毒菌の制御法の開発、及び食品の各種機能性に関する研究を行っています。このように、食品の安全性と機能性を同時に評価することは、他の研究室にはみられません。」増田准教授は、自身の研究室の特徴をこう語ります。

「食品の安全性と機能性の評価が当研究室の二本柱です。安全性の評価に関する研究としては、トランス脂肪酸、アクリルアミド、グリシドール脂肪酸エステルなど食品中に含まれる各種化学物質の生成機構や遺伝毒性を調べ、ヒトに対する健康影響を評価しています。また、食中毒菌の毒素の産生や毒素の活性を抑制する植物食品を探索しており、これは、黄色ブドウ球菌などの食中毒菌に対して、抗菌剤でなく、ポリフェノールなどの植物成分を用いた食中毒制御法の開発を目指しています。」

「また、茶葉の放射線防護効果に関する研究も行っています。東日本大震災による福島第一原発の放射能漏れ事故の影響により、

放射能が人体にもたらす影響が懸念されていますが、当研究室では、緑茶、プーアル茶など各種茶抽出液をマウスに投与したところ、放射線の一種であるγ (ガンマ) 線により誘導される染色体異常に対し、強い抑制効果を示すことを明らかにしています。」「お茶、特に緑茶は日本人が日常的に摂取する飲料であり、放射線による内部及び外部被ばくに有効であると思われれます。」

研究室ではこの他、糖尿病発症時におけるがん誘発メカニズムの解明や、茶飲料をはじめとする各種植物素材の機能性及び安全性の評価やそれらを用いた商品開発について、産学官連携による共同研究を行うなど、多岐に渡り研究を行っています。



#### ■他の研究室にはない環境

「この研究室のメリットは、学生それぞれが全く違う研究に取り組んでいるため、様々な研究分野に広く触れられることです。食中毒菌を研究している学生が、化学物質の毒性について研究している学生の発表を聞き、また、化学物質を研究する学生が、肥満やアレルギーに効く食品素材を研究する学生の発表を聞くという具合です。一つのテーマを深く追求することはもちろん大切ですが、社会に出て、卒業論文のテーマに関係する仕事をする場面は、なかなかありません。」

ん。実社会では、様々な知識が求められるので、引き出しが多い方がいいと思われれます。また、この研究室では、客員教授の先生が在籍されており、学生にとって良い環境です。」と増田准教授は言います。「毎週の中間報告会では、外部の先生が、研究計画や方法について厳しく質問し、また様々なアドバイスを情報提供してくれます。学生もそれに対して準備をすることから良い刺激になっていると思います。」

#### ■学生には厳しく、コミュニケーションを大切に

以前、教員を目指し、教育学部を志望していたというだけあって、研究だけでなく、学内の駐輪違反の取締まり、研究室での毎朝当番制での掃除を義務化、時間厳守の徹底、協調性の重要性を説くなど、学生の社会生活や集団生活にも厳しい増田准教授。「とにかく社会人として、時間の厳守、協調性、挨拶、仕事などの段取りをすることは基本であり、重要です。朝の掃除も、当番の学生が時間までに来ないと私が掃除をします。大学卒業後、一般企業に就職した会社員としての経験から、学生が会社員として使えるか、部下としてほしいかどうか見て指導しています。大学生生活は通過点

ですから、その先の社会で通用するような力を持つ学生を育てたいと思っています。」自身が本学のOBということもあり、地元である志太地区出身の学部在校生及び卒業生からなる会(志太くす)を主催し、学生間の縦の繋がりを作るなど、学生とのコミュニケーションをととても大切にしている増田准教授。そんな先生の研究室の扉の裏には、卒業生たちの顔が並びます。「これを眺めていると、彼らも社会で頑張っているのだから、自分ももっと、という気持ちになります。扉が卒業生の写真でいっぱい埋まるまで、卒業生が帰ってきたいと思えるような研究室を続けていきたいと思っています。」

#### 学生の声

##### “バランスの良さが研究室の魅力”

➡ 薬食生命総合学府 博士前期課程1年 柴田昌治さん

現在、生薬の一種である金銀花の抗アレルギー効果について研究しており、将来は食品関係の企業での研究職を目指しています。薬剤師を目指していたこともあって、食品で人の健康を支えるという視点に興味を持って食品栄養科学部に入りましたが、今は研究そのものを楽しんでいると感じています。また、僕自身スポーツをしたり、皆で何かをしたりすることが好きなので、この研究室は、研究とそれ以外のことのバランスが合っていると思います。



研究室の扉に貼られた卒業生の写真

## 食品栄養科学部 臨床栄養管理学

### 研究室

**新井 英一 准教授** (臨床栄養学、病態生化学)  
**佐久間 理英 助教** (臨床栄養学)  
 ■ 在籍学生数: 9名  
 ■ <http://sfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/nutrcont>

糖尿病・肥満・高血圧などの生活習慣病は、私たち国民の大きな課題となっています。臨床栄養管理学研究室では、生活習慣病をはじめとする疾病の治療と予防を目指し、一人ひとりの生体における代謝動態の解析や、栄養素の探索と機能解析、栄養管理法の構築など、「食」を通して健康長寿に貢献する研究を行っています。

#### ■食後の代謝動態を評価し、疾病の治療と予防に挑む

食品成分の作用機構の解析、また医療現場における患者に対する臨床栄養管理の評価と構築について研究を行う中で、「生体の代謝動態の把握」が重要なテーマだと新井准教授は言います。

「生活習慣病は突然発症するものではありません。食生活の乱れが慢性化することで生じるものです。これには生体の代謝応答が影響していて、食後の代謝調節に病気の元凶が隠されています。この代謝動態を調べるために、研究室では呼気ガスを測定する機器を備えています。体内に摂取した栄養素は、最終的に水と二酸化炭素に変わります。酸素摂取量や二酸化炭素排泄量を測定することで、栄養素をどのように利用しているかが分かり、対象者(患者)における栄養の過不足を評価することができます。食事療法とその有効性は解明されつつありますが、十分ではありません。」

ん。本研究室では、研究を通じて、より有効な成分や素材、また効果的な摂取方法を探索しています。また、パラチノースなど、吸収が緩慢な糖質を用いた食後高血糖に関する研究も行っています。パラチノースなどいわゆる低GI成分は、時間をかけて吸収されるので、血糖値の急上昇を回避するだけでなく、体内ではゆっくり代謝応答が起こることで、身体への負担を軽減することが可能となります。そのため摂取後の体内動態を調べるといった栄養管理が、疾病の予防や治療に対して重要になるのです。」



#### ■基礎と臨床を繋ぐ知識と技術を学ぶ

臨床栄養管理学研究室には、管理栄養士を目指す学生が多く在籍し、栄養評価・判定に基づく栄養指導などの高度な専門知識と技術を学んでいます。

「管理栄養士は病院や行政・企業など、働く現場は様々ですが、どこでも即戦力になる、使える知識を習得する、をモットーに教育・研究を行っています。医師と同等とはいかないまでも、疾病のメカニズムを知らなければ、療養のための栄養指導、栄養管理は行えない。学生のうちにできる限り多くの知識と経験を積んで欲しいと思います。そのため、日頃の研究に加え、医療現場での

実習を行い、現場で働く管理栄養士の方とふれ合う場をつくっています。」

また、新井准教授は、「個」を知ることの重要性も学生に伝えています。「糖尿病や高血圧、病名はひとつでも、症状は個人で異なります。個々の体で起きている現象を理解して、食事療法を構築していかなければいけません。食生活や生活環境など、患者さん一人ひとりを細部まで見極める力こそが、管理栄養士として何より求められる力だと思っています。また、情報をどのように患者さんから聞き出すのか、コミュニケーション能力も重要です。」

#### ■全てに全力投球を

大学の研究も、医療現場の治療も、恋愛もスポーツもすべて同じだと日頃から学生には言っています。栄養管理・給食管理・危機管理などのマネジメント能力が管理栄養士は求められるので、いろんな経験を通じて、対応策を知らなければなりません。そのためには、中途半端に物事と接するよりも、真剣に向き合ってトライアンドエラーを繰り返し、結果のみを求めるとはくプロセスを知ること

です。最近の学生は失敗をできる限り避けようと思いますが、失敗によって大きく飛躍することはあります。だからこそ、研究もバイトも友達との関係も、全てにおいて全力投球してほしいと思いますし、道を選ばせるのではなく、様々な選択肢を用意して学生自身が選ぶ環境を提供したいと思います。」

#### 学生の声

##### “この研究室に入って自分自身が変わりました”

➡ 薬食生命総合学府 博士前期課程1年 森本優香さん

学部生の頃、病院への就職を考えていましたが、病院での実習に参加してから、もっと研究をとおして知識を深めたいと思い大学院に進みました。今、食品添加物などに含まれるリンの過剰摂取が問題視されています。そこで、蓄尿を用いたリンの推定摂取量を評価し、人体に及ぼす影響について研究しています。この研究室のメンバー、先生をはじめ、皆とてもアクティブです。日々の研究は忙しいですが、ボウリングやカラオケ、マラソン大会など、いろんなイベント参加して楽しんでいます。この研究室に入ってから何に対しても積極的になったと思いますし、友人にも変わったねと言われるようになりました。



間接熱量計エアロモニター  
呼気中のガスを測定し、代謝測定できる機器。

## ■研究成果報告

### 視覚障害者向けラジオ聴取アプリを企業と共同開発

国際関係学部  
石川 准 教授

国際関係学部の石川准 教授が、音声・点字モバイル端末でラジオ聴取できる視覚障害者向けの「radiko.jp」アプリを、株式会社 radiko と共同開発しました。

「radiko.jp」は、AM 波や FM 波などの地上波ラジオ放送を、インターネットで同時配信する IP サイマルラジオサービスで、民放ラジオ 65 局と放送大学を聴取することができます。radiko 社からスマートフォンやタブレット端末で聴取できる公式アプリケーションが提供されています。

今回共同開発したアプリは、石川准 教授が韓国の HIMS 社と共同開発した音声・点字モバイル端末「ブレイルセンス」の専用アプリです。ブレイルセンスの利用者から、ブレイルセンスで「radiko.jp」を聴けるようにしてほしいという要望が多く寄せられたことから、共同開発に取り組み、今年7月に完成しました。これまでのブレイルセンスには、FM ラジオ受信機能は備えられていましたが、「radiko.jp」アプリにより、電波状況に左右されずクリアな音質で番組を聴取することができるようになり、視覚障害を持つユーザーにとって、情報を入手する新たな手段として利用が期待されます。

#### ——石川先生に今回の共同開発について伺いました。

「開発過程では、radiko.jp のエリア制限に合わせるのに苦労しました。ブレイルセンス内蔵の GPS レシーバで緯度経度を取得してサーバに位置情報を送るのですが、屋内では GPS 衛星の電波を受信することができないため、radiko 社の枠組みとユーザのニーズを両立させるのが大変でした。今は、radiko.jp のビジネスモデルの関係で聴取地域が限られますが、インターネットには本来、地域割りという考えはありません。静岡にいながら沖縄の番組を聴いたり、世界中から j-pop を聴くことができよはずです。radiko 社もラジオ各局と相談しながら、そのような方向を考えているようです。近いうちに、インターネットらしいグローバルな使い方ができるようになればと望んでいます。それから、今は、ブレイルセンスは Windows CE というやや古いプラットフォームを使っていますが、Android のような新しいプラットフォームに切り替え、常に最先端の機能やサービスを提供していきたいと考えています。」

本アプリは、現在販売されているブレイルセンスにプリインストールされていますが、既にブレイルセンスを使用されている利用者には販売元の有限会社エクストラを通じて無償で提供されています。



石川 准 教授

#### 石川 准 教授 プロフィール

国際関係学部教授

■専門分野:  
社会学、支援工学、障害学

■主な社会活動:  
・内閣府障害者政策委員会 委員長  
・中央教育審議会初等中等教育  
分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会委員長代理  
・特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会 理事長

■主な著書:  
『アイデンティティ・ゲーム』  
(新評論、1992年)  
『障害学への招待』  
(編著、明石書店、1999年)  
『見えないものと見えるもの』  
(医学書院2004年)



▲ブレイルセンスを使って radiko.jp でラジオ聴取する様子。  
室内にいながらとてもクリアな音質



▲ブレイルセンスオンハンド

## 学外者の専門相談員による ハラスメント相談をはじめました

本学では、ハラスメントのないキャンパスにするため、諸規程を整備し、教職員への研修やリーフレットの配布などの啓発活動を行うとともに、ハラスメント相談窓口を設け、教職員が相談員として対応しています。今年9月より、この教職員のハラスメント相談員に加えて、学外者のハラスメント専門相談員を配置しました。専門相談員は面談のほか、電話でも相談を受け付けています。匿名での相談もできます。相談者のプライバシー・個人情報は厳守しますので、安心してご相談ください。

### 相談窓口について

- 相談日  
〈谷田キャンパス〉  
原則として毎週火曜日（第1火曜日を除く）  
〈小鹿キャンパス〉  
原則として毎月第1火曜日
- 時間  
10:00～17:00
- 申込方法  
相談日に電話又は事前に電子メールにて、  
相談の日時を予約

相談場所や問い合わせ先の詳細については、[大学公式サイト\(学内専用情報\)](#)をご覧ください。

大学公式サイト(学内専用情報>学生専用情報または教職員専用情報>ハラスメント相談窓口)

### 広報誌はばたきへのご感想をお寄せください

「広報はばたき」へのご感想・ご意見、今後取りあげてほしいテーマなどをお聞かせください。住所・氏名・電話番号を明記し、郵送もしくはEメールでお寄せください。いただいたご意見は今後の誌面づくりの参考とさせていただきます。また、ご感想の内容を広報誌に掲載させていただくことがあります。掲載を希望しない場合、匿名を希望する場合はその旨をご記入ください。

お問い合わせ先は巻末をご覧ください。

## 教員人事

### ◆採用(5月1日付)

鈴木 和香子	看護学部看護学科	助教
--------	----------	----

### ◆採用(6月1日付)

小川 和久	グローバル地域センター	特任教授(センター研究員)
西 恭之	グローバル地域センター	特任助教(センター研究員)
山口 深雪	薬学部薬科学科	助教

### ◆採用(7月1日付)

玉野 春南	薬学部薬科学科	特任助教
-------	---------	------

### ◆退職(8月15日付)

瀧 優子	薬学部薬学科	助教
------	--------	----

### ◆名誉教授(4月1日付)

佐藤 雅之	前薬学部教授
-------	--------

# 図書館だより



## 図書館長の呟き。

スタンフォード大学の卒業式辞で語っているように「愚か者」であり続けて六千億円の資産を作るヒトの伝記『ステイプ・ジョブズ1・2』(289.3/156)はやっばり読の価値があります。

モーツァルトのピアノ協奏曲イ長調と三長調『戴冠式』のCDではゲルダとアーノントールが組んだものが双方の主張が生かされた快演で嬉しい。アーノントールは往々古楽の研究から、と思われていますが、ご本人は自分がやればそれが一番伝統的だと思っ

ているに違いないとこのユニークな音楽家の本性が感得される伝記が『ニコラス・アーノントール』(762.346/M69)、本学国際関係学部の小谷民菜先生の素敵な訳で。アーノントールご本人の書いた『古楽とは何か』(762.3/H33)ですが、これは翻訳者がバツハ学の泰斗樋口隆一と許光俊ですが、許はH

MVのホームページに「許光俊の言いたい放題」という洒落な演奏評論を連載していて、読みたえがあります。今年も小生が「時期耽読していた吉田秀和も遂に世を去られました。この人が相撲の取り組みをラジオで聞いて、その場でそれを文字で表現

することを繰り返して練習したという話を聞いて「あつ、これだ。」と思ったものです。皆さまは『永遠の故郷』(760.4/Y86/14)+CDでそんな努力の跡の微塵も感じられない美しい日本語を愉しんでください。

あと青柳いづみこの作品も紹介したかったのですが、ここではもう一人シンという科学ジャーナリストの作品を。この人の『フェルマーの最終定理』(412.2/Si8)は数学の人間ドラマを味わえます。フェルマーの定理関係は他にもいくつか書架にあります。日本人の書いたのは避暑向けには薦めません。

最後に手に取って触って欲しい本。薔薇の香りのマカロンが素敵なラデュレの『ラデュレのお料理レシピ Sale』(596.23/L56)。藤紫のベルベットのタッチが優しく、なかのお料理の写真的可愛いこと無類です。センスの良さは原題の『Sale(仏語で塩)』で明らか。料理は塩梅(あんばい)ですよ。

※「ステイプ・ジョブズのスタンフォード大学の卒業式辞」や「ゲルダとアーノントールの『戴冠式』の演奏」は英語で探すと、簡単にYouTubeで視聴できます。

シリーズ **私の1冊の本**

真鍋 敬 教授(薬学部) 紹介図書 『部分と全体：私の生涯の偉大な出会いと対話』

著者名:W.K.ハイゼンベルク 著 山崎和夫 訳

- 出版社:みすず書房
- ISBN:4-622-04971-6
- 図書館所蔵:閲覧室1階
- 請求記号:289.3/H51

「将来は大学で働く研究者になりたい」と私自身が考えるきっかけとなった本です。

不純な動機で読み始めました。私が大學生のときに履修していた教養科目のドイツ語で、本書の原著の一部がテキストとして使われていました。宿題でそれを和訳しなければならず、翻訳版が出版されていることを知った私は、自分で和訳することなく翻訳版をそのまま写そうと思ひ購入しました。

しかし読んでみて、その世界に引き込まれました。

本書は、量子力学の創成に大きな役割を果たした物理学者ハイゼンベルクの自伝です。副題は「私の生涯の偉大な出会いと対話」となっており、様々な人たちといろいろな場面でなされた対話が綴られています。ボーア、パウリ、アインシュタインなど、量子力学の黎明期に活躍した

物理学の巨人たちが登場します。対話の内容は様々です。量子力学の話はもちろんなこと、政治や宗教・音楽などについても哲学的対話を繰り返して広げます。このような知的創造の場に立ち会うことができればどんなにエキサイティングで楽しいだろうと、大學生の私は将来に思いを馳せました。

科学とは哲学だ。大学とは思想を創る場所だ。いま本書を読み返してあらためて感じます。

### 本学教員からの寄贈著書

- 富沢 寿勇 先生(国際関係学部) 『文化変容の諸相:富沢ゼミ論集』 2011・2012(380.4/5h94)
- 渡辺 達夫 先生(食品栄養科学部) 『スパイスなんでも小事典』 日本香料研究会編 講談社(617.6/N77)
- 『抗肥満食品の開発と応用』大澤俊彦 監修 シーエムシー出版(588/Ko27)
- 奈倉 京子 先生(国際関係学部) 『帰国華僑:華南移民の帰還体験と文化的適応』 風響社(344.522/N27)
- 森山 優 先生(国際関係学部) 『日本はなぜ開戦に踏み切ったか:「南論併記」と「非決定」』 新潮社(319.1/Mo73)
- 平山 洋 先生(国際関係学部) 『アジア独立論者福沢諭吉:脱亜論・朝鮮滅亡論尊王論をめぐって』 ミネルヴァ書房(289.1/F85)
- 高瑞 紅 先生(経営情報学部) 『中国企業の組織学習:国際提携を通じたパラダイム転換』 中央経済社(335.222/Ko11)

# 奨学金授与式が行われました

静岡県立大学では、地域の地元企業等の協力による奨学金制度を設けており、学生の支援に有意義に活用されています。今年度は、10社の企業・団体から、合計37名の学生が奨学金が授与され、企業・団体、寄付者を招いて奨学金授与式が行われました。

本学では、創立以来、企業・団体、保護者、一般有志の皆様からのあたたかいご支援をいただきながら、「県民の誇りとなる価値ある大学」の実現に向け、社会に貢献できる有為な人材の育成に努めてまいりました。今後も奨学金制度をはじめとした、学生支援のさらなる充実を図るとともに、地域社会に多様な有為な人材を輩出してまいりますので、本学奨学事業に対するご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年度の奨学生の皆さんのこれからの活躍を期待しています。

## TOKAI グループ奨学金

授与式: 6月22日

- 薬学部5年 中野 真理子
- 国際関係学部3年 山下 柊紀
- 薬学部2年 林 昌奈
- 薬食生命科学総合学府博士前期1年 張 静秋
- 国際関係学部3年 李 華



## 静岡ガス奨学生

授与式: 7月4日

- 看護学部3年 浅香 英里
- 看護学部3年 ヒガ ミドリ



## 万城食品奨学金

授与式: 5月14日

- 国際関係学研究科1年 李 曉嵐



## 静岡信用金庫奨学生

授与式: 6月29日

- 看護学部4年 長坂 愛里
- 経営情報学部3年 石井 千詩



## 公益信託東海澱粉国際交流奨学基金

授与式: 7月26日

- 国際関係学研究科2年 楊 秀霞
- 経営情報イノベーション研究科2年 銭 宇喆



## 天野回漕店奨学金

授与式: 7月25日

- 食品栄養科学部3年 LE THI THUY TIEN
- 経営情報学部2年 SU MON YEE



## しずぎんアジア留学生奨学金

授与式: 3月22日

- 国際関係学研究科2年 ENDY MUHTIADI IRFAN
- 経営情報イノベーション研究科2年 NILAR SAW
- 経営情報学部4年 沈 莎倩
- 経営情報学部3年 NGUYEN THI HOAI THU



## ロッキー奨学基金

授与式: 8月10日

- 薬学部6年 杉山 亜由美
- 薬学部5年 伊東 未来
- 薬学部3年 嘉山 節子



### 地元企業等による本学学生への奨学金一覧

名称	給付金額	支給期間	応募資格	24年度採用人数
(株) TOKAI ホールディングス	月額5万円	1年間	全学生(研究生、科目等履修生含む)	日本人3人 留学生2人
静岡ガス(株)	月額5万円	1年間	学部生・大学院生	2人
(株) 万城食品	月額5万円	1年間	中国からの留学生	1人
静岡信用金庫	月額5万円	1年間	静岡県内出身の学部生	2人
公益信託東海澱粉国際交流奨学基金	月額3万円	1年間	アジアからの留学生のうち修士大学院生	2人
(株) 天野回漕店	月額5万円	1年間	中国・東南アジアからの留学生のうち学部2~3年生	2人
スルガ奨学財団	月額5万円	2年間(3,4年次)	外国人留学生のうち学部2年生	1人 (平成23年度実績)
清水ロータリークラブ	4万円	一時金	外国人留学生のうち、他の奨学金を受給していない学部新入生	15人 (平成23年度実績)
株式会社静岡銀行	月額10万円	2年間	アジア地域からの国籍を有する学部2年生以上の留学生	4人
静岡県労働者福祉協議会	年額20万円	一時金	静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で2年生以上の者	3人

## 第26回 剣祭開催のお知らせ

剣祭実行委員長 大竹 啓斗

(薬学部 3年)

10月27日(土)、28日(日)に第26回剣祭が開催されます。

今年はテーマを「粋～僕らの心意気～」とし、例年と一味違う剣祭をお送りします。

当日はオープニングセレモニーで幕を開け、各クラブ・サークルによるイベントや模擬店をはじめ、オトメンコンテスト、K-1(カラオケワン)、後夜祭を行います。また、研究室解放、模擬授業、お化け屋敷、スタンプラリー、フリーマーケット、休憩室など、内容は盛りだくさんです。ガールズバンド「ねごと」のコンサートも必見です。子供から大人まで楽しんでいただける2日間です。多くの方々のお越しを心よりお待ちしております。

### 本番に向けて毎日活動中!



剣祭実行委員会は約100名が在籍しており、それぞれがそれぞれの仕事を持っています。剣祭の準備は7月ごろから始まり、写真は剣祭で使う小物や装飾物を製作しているところです。

### 剣祭のイメージキャラクターを募集します!

採用されたキャラクターは剣祭や大学関係行事に使用されます。ゆくゆくは県大の顔となるかもしれないキャラクターを作ってみませんか?

応募については下記お問い合わせ先まで。

応募締切:10月17日(水)まで

応募資格:静岡県立大学に在籍する学生

#### 〈お問い合わせ〉

剣祭実行委員会 054-264-5075

大学事務局企画調整室 054-264-5103

【剣祭公式サイト】 <http://tsurugi.web6.jp/26concert/concert.html>

## 公認 静鉄自動車学校

静鉄95-7

静鉄自動車学校は、静岡県でトップクラスの事故者率の低さを誇っています。免許取得をお考えの際には、安心と信頼の静鉄自動車学校にお任せください。

詳しくはインターネットで 静鉄自動車学校

検索

☎ 0120-450-335

受付時間 9:00～20:00 【日曜・祝日を除く】



### 教習車種



普通自動車



自動二輪車  
大型・普通 (MT・AT)



大型・中型自動車



大型・中型・普通二種

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。